

日本標準商品分類番号
873326

※※2013年4月改訂（第5版 製造販売元社名変更）
※2009年6月改訂
【貯法】室温保存
【注意】「取扱い上の注意」の項参照
【使用期間】36ヶ月
【使用期限】外箱に表示

	500 mg	1 g
※承認番号	22100AMX01217000	
※薬価収載	2009年9月	2009年9月
販売開始	1978年4月	1994年11月
再評価結果	1983年4月	

局所止血剤

処方せん医薬品

※ **アルト原末**

A l t o
アルギン酸ナトリウム

注意—医師等の処方せんにより使用すること

〔組成・性状〕

1. 組成

本剤は一管中にアルギン酸ナトリウム500mg及び1gを含有する。

2. 性状

本剤は白色～帯黄灰白色の微粉末で、におい及び味はなく無菌的に製した製剤である。

〔効能・効果〕

出血部位が表面に限局され、局所の処置で止血する場合、とくに結紮困難な細小血管の出血、実質臓器の出血など。

〔用法・用量〕

必要に応じて所要量を創面に撒布し、乾いたガーゼ又は生理食塩水を浸したガーゼ又は脱脂綿にて短時間押さえる。

〔使用上の注意〕

1. 慎重投与（次の部位には慎重に投与すること）

視神経及び視束交叉の周囲〔圧迫により視力障害を起こすことがある〕

2. 重要な基本的注意

本剤は殺菌作用を持たないので、感染の可能性が高い場合には、適切な処置を考慮すること。

3. 適用上の注意

使用時

(1) 創面への使用に当たっては癒合を妨げる可能性があるため過量に使用しないこと。

(2) 膨張による圧迫が正常な機能を妨げる可能性があるため創腔又は組織の間隙に使用する場合には詰めすぎないように留意すること。

〔薬物動態〕

（参考）

¹⁴Cで標識したアルギン酸ナトリウムをラットに経口投与し17時間経過中の¹⁴Cを測定した結果、糞中85～91%、尿中0.11～0.16%、呼気中（CO₂）0.21～0.42%、血漿中0.002～0.007%であり、アルギン酸ナトリウムの吸収は極めて小さい。¹⁾

〔臨床成績〕

1. 子宮頸上皮内腫瘍に対して行ったメス及びCO₂レーザーによる円錐切除術について「酸化セルロース」を対照薬剤として用い、アルトの止血並びに創傷治癒効果を検討した結果、副作用は認められず対照薬剤に比べ有用性が見られた。²⁾

2. 産婦人科領域の出血性疾患に止血目的でアルト0.5gを一週間以内で用いたところ、本剤に起因すると思われる副作用は全例に認められず、有効率は93.3%（症例30例中28例）であった。³⁾

〔薬効薬理〕

1. 止血効果⁴⁾

ラット及びウサギの肝臓に作成した出血モデルでの止血効力試験において、ゼラチン製剤に比べて出血量の減少、出血時間の短縮が認められた。

2. フィブリン形成促進作用⁵⁾

アルギン酸ナトリウムは、フィブリノーゲンと相互作用を有し、フィブリン形成を促進させる（*in vitro*）。

3. 血小板粘着・凝集促進作用⁶⁾

アルギン酸ナトリウムは出血部に吸着被覆し血小板の粘着・凝集を促進させることにより血小板血栓の形成を速める（*in vitro*）。

4. 赤血球凝集作用⁷⁾

フィブリン形成、血小板凝集過程において赤血球を凝集し、より強固な止血栓を形成する（*in vitro*）。

5. 抗線溶活性⁸⁾

アルギン酸ナトリウムはプラスミンによるフィブリンの線溶活性を抑制することにより止血作用を持続させる（*in vitro*）。

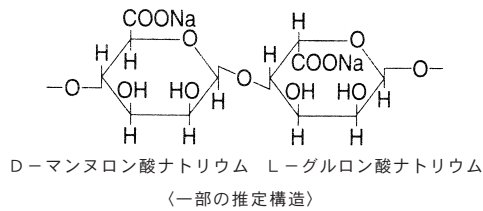
〔有効成分に関する理化学的知見〕

一般名：アルギン酸ナトリウム

Sodium Alginate

分子式： $(C_6H_7O_6Na)_n$

構造式：



性状：アルギン酸ナトリウムは白色～帯黄灰白色の粉末でにおい及び味はなく、エタノール、クロロホルム及びエーテルにはほとんど溶けない。水に膨潤して徐々に溶け粘性の高い液となる。

〔取扱い上の注意〕

開栓後は直ちに使用し、開栓後の未使用分は微生物汚染を防ぐため使用しないことが好ましい。

〔包装〕

500mg×10管 1g×10管

〔主要文献〕

- 1) Humphreys E. R. et al: Nature, 219, 1172, (1968)
- 2) 本多静香 ほか：臨床婦人科産科, 43(10), 1007, (1989)
- 3) 角田千恵子 ほか：薬理と治療, 13(1), 367, (1985)
- 4) 醍醐皓二 ほか：薬理と治療, 11(2), 391, (1983)
- 5) 醍醐皓二 ほか：薬学雑誌, **101(5)**, 464, (1981)
- 6) 醍醐皓二 ほか：薬学雑誌, 105(2), 171, (1985)
- 7) 醍醐皓二 ほか：薬学雑誌, 102(6), 573, (1982)
- 8) 山田千秋 ほか：薬学雑誌, 107(1), 53, (1987)

※※〔文献請求先〕

カイゲンファーマ株式会社 商品企画部 学術課

〒541-0045 大阪市中央区道修町二丁目5番14号

TEL 06 (6202) 8975

FAX 06 (6202) 0872

※※製造販売元

カイゲンファーマ株式会社

大阪市中央区道修町二丁目5番14号